

# 2009 年度(社)島根大田青年会議所

## 理事長所信

2009 年度(社)島根大田青年会議所  
理事長 林 陽一

【スローガン】

### 「飲水思源」

～ 知識を知恵に 今何をすべきか 自ら考え行動する ～

【基本方針】

- 魅力ある聡明なリーダーの育成
  - ・理解力・判断力・実践力の習得と JC 外での実践
- 産業振興からのまちづくりを通じて興す、個人の意識改革
  - ・複合的なまつりの開催
- 心豊かで思いやりのある、次代の育成
  - ・親子で築く「感謝の心」
- 先達の功績を活かし、次代を担う人材の発掘
  - ・先輩方との交流・会員拡大
- 公益社団法人格取得に向けた検討、そして選択へ
  - ・事業の検証、組織運営の見直し
- 島根ブロック会員大会の開催
  - ・大会運営の検討と開催手法の模索、公益性の追求

### 夢・未来を語る JC

1995年1月17日、その日は阪神淡路大震災が発生した日。私も救済活動に参加し、その時初めて、組織されたNGO団体の活動を目の当たりにし「ボランティア」という概念を知りました。明確な目的を持ち、自らの利益を求めない活動に驚き、そして共感したことを覚えています。常に奉仕と愛をもって取り組むボランティア活動に、自分の知らない、違う生き方を知り衝撃を受けました。物質的豊かさではなく、心の豊かさ、まさに生きている事が実感できる活動を知り、私も奉仕の心を持って、歩んでいきたいと思いました。

J Cでは、奉仕の形は違いますが、奉仕、修練、友情の三信条の下、明るい豊かな社会

の実現を目指し、リーダーの育成や地域の課題に率先して取り組む団体で、私も志を持って日々活動しております。

38年前、情熱と使命感に燃えた先輩方により、(社)島根大田青年会議所が明るい豊かな社会の実現を目指し設立され、価値ある功績を築き上げてこられました。

我々は、日々JC活動が行えることに感謝の念を忘れず、先達の知恵を継承しながら、大きな時代の流れの中に、翻弄されることなく、今何をすべきかを自らが考え、そして能動者となり、事業の公益性を模索しながら活動します。

常にひとつづくり、まちづくりの答えは、我々の足下、そして自分自身の中に見つかると思います。

### **魅力ある聡明なリーダーの育成**

JCは、個人の資質向上が最大の目的です。その目的は、「JCは卒業してからが本番だ」と言われるように、現役中に、自分の能力を向上させ、卒業してから、地域のために必要とされる人材でなくてはなりません。また、知識だけの習得に留まらず、実践することではじめて体得でき、「知恵」が身につきます。そして、自信が持て、自分自信に確固たる信念が生まれてくるのです。

2009年度はメンバー対象の研修はもちろん、JC外での研修も率先して開催します。JC外で実践し評価を受けることで、はじめて己の能力に気づき、改良点が見え、個人の成長へと繋がると考えます。そして、柔軟性を持ち合わせ、新たな発想で目の前の課題を解決する、地域のリーダーとなるための素質を磨き上げます。

### **産業振興からのまちづくりを通して興す、個人の意識改革**

大田市が直面している人口減少、少子・高齢化、産業の衰退、財政状況など、課題は山積みです。また企業においても、厳しい経済状況の中、それを打破するため、様々な打開策を模索しています。

大田市が最優先に取り組んでいる産業振興にJCも着目し、産業振興からのまちづくりを掲げ、大田市に活力を取り戻すための事業を行います。産業振興からのまちづくりを通して、人との繋がりが心を豊かにし、相互の知恵により新たな夢が持て、個人の意識改革を促します。そして、事業を通じて相互の交流を行うことで、今までの既成概念をなくし新たな発想で問題解決に取り組み、率先して挑戦する気概も養い、明るい豊かな社会の実現へ繋がると考えます。

### **こころ豊かで思いやりのある、次代の育成**

昨今、インターネットの発達で生活が大きく変わりました。世界中の情報が瞬時に手に入り、ネットを通じての多大な利益と知識を手に入れた反面、生身の人と人との繋がりを断ってしまう事が多くなり、子どもが巻き込まれる犯罪も多発しています。

子どもは外でおもいきり遊び、いろいろな事を経験します。その積み重ねで善悪を知り、地域の恩を知り、社会に適応できる大人へと成長します。相手の立場に立って、一緒に考

え、時にはねぎらいの言葉をかける、自分の意見を主張し相手を認める、こんな基本的なことが欠けている時代だからこそ、当たり前のことをもう一度考えなおす、大切な時期だと考えます。

人には優しく、嘘をつかない、挨拶をする、目上を尊敬する、年下を可愛がる、感謝をする、まじめに働く・・・常に意識し、子どもに指導するのは大人の責任です。

2009年度は、人間本来の生きるための知恵や感謝のこころを養う事業を行います。身近にある大田市の自然という素晴らしい教室を利用し、日頃、快適な暮らしができるのは、誰のお陰なのかを改めて考え、「感謝するこころ」と人との繋がり大切さを育成します。

### 先達の功績を活かし、次代を担う人材の発掘

私は、JC活動を通じて多くの気づきやチャンスを得て、資質向上を図り、自分なりに志を立て、負託と信頼に応えるためにJC活動を行っています。また、夢を語りあえる人脈ができ、JCの素晴らしさを伝えることが出来るようになりました。

JCの活動を説明するとき、誇りを持って出来ているだろうか。「あなたがいるからJCに入りたい」こう言わしめるためには、自分のこれまでの経験でしか相手に、JCの必要性や素晴らしさは伝わらない。次代を担う人材発掘のため、先輩方の知恵を得て、今までJCで磨き上げてきた自分を武器に、会員拡大を行います。

2009年度は、相互の交流を目的にこれまで先輩方が行ってこられた事業を知り、世代を超えた目線で違った角度からの意見をいただき、今後の事業展開のヒントを得ます。また、会員候補となる人材を発掘する場にもします。

会員拡大を行う重要性は、活力あるまちづくりを実現する上で、信念と情熱ある人材なくしては不可能です。それは活力ある大田市にするため、将来必要な人材で、我々JCが人材という宝を発掘していく必要があるからです。

### 公益社団法人格取得に向けた検討、そして選択へ

この大変な時代になぜJC活動を行っているのでしょうか。会社経営や家族もいれば、簡単に動くこともできない状況の中で、明るい豊かな社会の実現が達成できるのか。JC活動を行うメンバーは、一度は自問した事があるのではないのでしょうか。その歪みが出ている事に気づき、JC活動を行うことで、何かを犠牲にしていることが、本当に良いのかを考えることも大切ではないのでしょうか。単年度制におけるJC活動において、成果を最大限に引き出すためにどう事業を構築するのか、また、運営方法の検討も行う必要があります。

2009年度は、制度改革を契機に、実務レベルでの認識はもちろん、地域を担う団体として、今後の活動を見直す機会と捉え、組織変革の一助とします。

また、公益社団法人格取得に向けた検討会を設け、LOMとして今後の方向性を決めます。

### 第35回 島根ブロック会員大会の開催

2009年度は第35回島根ブロック会員大会を(社)島根大田青年会議所が主管します。昨今、各LOMが抱える課題は、会員の減少、公益法人格取得、今後さらに求められる公益事業の見解など、真摯に取り組まなければならない課題がたくさんあります。

第35回島根ブロック会員大会では、それぞれ地域の課題への取り組みを知ることで、明日への事業展開の一助とし、また、ブロック内メンバーと共に次代に向けての夢を語り合い、会員相互の親睦を深め、今後島根ブロック内メンバーが、進むべき方向を共有する大会とします。併せて、公益性のある大会にするために、ブロック内メンバーの参加はもちろん、先輩方、市民に向けてJC活動への理解を促す、周知の大会にもします。

第35回島根ブロック会員大会を開催するにあたり、LOMのメンバー一人ひとりが、主体的に動き、知恵を出し合い、島根大田らしい有意義な会員大会を目指します。

### おわりに

私の机の前にはGTSの報告書が常に置いてあります。2005年度島根ブロック協議会GTS（グローバルトレーニングスクール）委員会の委員長という大役をいただきました。

島根ブロックでは初めての事業であり、GTS経験者が私を含め誰もいない中で、どう創り上げていくのか、不安で仕方がありませんでした。しかし「やる！」と腹を決めてからは、不思議と物事が一気に進み出し、この事業の重要性と使命感を強く感じました。事業までの行程は本当につらく、日々の業務にまで差し支えるほどでした。しかし、委員会メンバーで励まし合い、一人ひとりがこの事業の大切さを理解し、参加者には多くの気づきを得てもらい、さらに言葉では言い表せない感動の共有を味わってもらいたい、その一心から必死で動いて実現することが出来ました。

GTSは、まさにJCの全ての要素が詰まった素晴らしい事業でした。海外に出て気づく日本の素晴らしさ、恵まれた環境、家族・地域の大切さ、コミュニケーションの大切さ、子どもが教育を受けられる素晴らしさ、子どもを育てる親としての心構え、人種を超えた文化交流、自己修練など、全ての物に対し、「感謝」して生きることの大切さを、改めて気づくことが出来る事業でした。

事業の最後、何とも言い難い達成感と、これまで支えていただいた方々の顔が目に浮かび、感謝の気持ちで一杯となり、初めて事業で泣きました。情熱を持って事業に取り組み、達成した事があるメンバーなら、この気持ちが必ず分かるはずです。

私は会社経営、JC活動を行う上で、GTSで培った経験を軸に、常に「感謝のこころ」を持って取り組むようになりました。また、自分自身が輝き出すことで、人に影響を与え、賛同してくれる仲間ができ、社会的な運動に繋がると信じ行動しています。

2009年度は、スローガン「飲水思源」を掲げ、メンバーは与えられた課題に、英知と勇気と情熱を持って、全心全力で事業推進に取り組み、共に泣き笑いそして楽しい一年にしていきましょう！

## 2009年度 事業計画

### 委員会名【総務広報委員会】

委員長 杉谷 孝雄

副委員長 橘 紀之

#### A. 所信

(社) 島根大田青年会議所は明るい豊かなまちづくりの一助となるために、情熱をもって活動を続けています。この活動を市民により広く認識して頂き、一緒に活動したいと感じて頂くことが組織の拡充に繋がると考えます。そのためにも、委員会相互の連携を密に取り合い、ホームページの速やかな更新と内容の充実を図り、各種報道機関に働き掛け、連携を強化することで、より多くの市民に我々の活動を知って頂き、共に活動して頂けるよう広報活動を行って参ります。

また、2008年12月の公益法人制度改革法の施行に伴い、各法人への5年間の移行期間が始まります。我々は公益社団法人格取得を見据えて、団体としての存在意義を再確認し、現在までの活動状況を検証することが必要だと考えます。先輩方から継承してきた(社) 島根大田青年会議所の歴史を疎かにすることなく、LOMとしてメンバーの意思統一を図っていくことが本委員会の役割だと確信します。

島根ブロック会員大会を10年振りに主管するにあたり、県内各LOMの会員が一堂に集い語らうこの大会で、各地域のJC活動で培われてきた手法を会員で共有し、それぞれの地域に持ち帰り、新しい事業展開へ繋げて頂きたいと考えます。そして、LOMの枠を超えた会員相互の親睦を深め、「大田に来て良かった、楽しかった」という言葉が聞けるよう有意義な大会を目指し、LOMが一丸となって活発に事業展開できるよう支援して参ります。

本年度の総務広報委員会は、「迅速かつ充実した内容の広報」と「公益社団法人格取得を見据えた検証」を柱とし、事業を展開して参ります。それに加え、諸会議が限られた時間の中で有効に行えるよう、運営方法の見直しを図ります。また、組織の要として、各委員会の事業の成果を最大限に引き出せるよう、円滑な組織運営を目指します。(社) 島根大田青年会議所の土台をしっかりと支える委員会として、1年間を通して、メンバー一人ひとりが生き生きと活動できる環境づくりに取り組んでいきます。

## 委員会名【会員開発委員会】

委員長 木原 大輔  
副委員長 宇賀 広実

### A. 所信

理想の実現、それは一人で成し遂げることは非常に難しいのではないのでしょうか。責任を持って行動出来る、より多くの仲間とめぐり会い切磋琢磨すること、そして弛まず続ける努力とその結果があって初めて成しえるものではないのでしょうか。

私たち青年会議所は「明るい豊かな社会」の実現という志を同じくする、多くの仲間たちと共に活動しています。その活動の輪を拓けることは、素晴らしい人材にめぐり会ったり、考えもなかった意見に出会ったり出来ることに加え、私たちの持つ理念をまちに拓げていることに繋がっています。多くの仲間と共にする様々な出会いや体験を通して、自分を磨き、企業活動、地域活動に反映をさせ、理想の実現に向かっているのです。しかしながら、青年会議所は「20歳以上40歳未満の品位ある青年」という、限られた会員資格の中で活動する組織です。会員開発委員会として、この定めを強く認識し、より多くの新しい仲間を迎え入れることに努め活動してまいります。

また、「明るい豊かな社会」の実現を志す青年会議所には、リーダーとしての力量、社会的責任、友情を培うための活動を通して築かれた歴史があり、そこには多くの出会いからの刺激と自己啓発、実践から生まれたネットワークがあります。「明るい豊かな社会」の実現と、地域をリードするにふさわしい人材育成のために、先輩方の築かれた青年会議所の歴史や財産をしっかりと認識、継承し、メンバーがこのまちのために活躍していくことが肝要です。会員開発委員会として、年間を通じて会員のふれあいや先輩方との交流を図り、組織を盛り上げ、個人や組織の活性化、事業に向けての盛り上がりを図る、そんな縁の下の力、組織全体を多面的にささえる底力となるべく活動してまいります。

今年一年、たくさんの人との繋がりを大切にしながら、この地域を明るい豊かな社会にするための能動者として、まちづくりのリーダーであらんとするメンバーが、活動意義を理解して行動出来る環境づくり、青年会議所会員としての自覚を促し、行動する組織づくりを目指すとともに、活力ある大田市を担う人材を発掘していきます。そして、第35回島根ブロック会員大会を開催するにあたり、公益性のある大会を目指し、メンバーはもちろん、先輩方、市民と手を携えることのできる組織づくりに取り組んでまいります。

## 委員会名【LD研修委員会】

委員長 岩崎 和幸

副委員長 山崎 桂一

### A. 所信

我々青年会議所が取り組む指導力開発の最大の目的は、会員個人の資質向上を図ることです。これまでの活動の成果の一つとして、創立以来38年間、情熱と使命感に燃えた地域のリーダーとして活躍する人材を送り出してきました。だからこそ我々は、これからも引き続きリーダーとなる人材を育成していかなくてはなりません。

LD研修委員会では、まず、青年会議所の目的・使命・価値観を改めて学んで頂き、我々に与えられた機会をどう活かすかを考えます。そして、例会行事においては、魅力ある聡明なリーダーになるための、理解力・判断力・実践力を柱としたプログラムを行い、会員が楽しく効果的かつ効率的にスキルを身に付けられるように工夫した事業を展開して参ります。また、会員のみならず一般の方も参加できる公開例会を行います。この例会を通して、青年会議所活動を知って頂き理解を得ると共に、会員拡大や人材発掘に繋げる場とします。

我々の活動は単に事業の成果を得ることだけでなく、その成果を生み出すまでのプロセスによって自分を成長させていくことができます。その中で何を学び、どのような参加意識で関わるかが大切です。会員が体得した知識を知恵に変え、日常での活用、さらには継続的な取り組みを行い、家庭・仕事・地域において率先してリーダーシップを発揮する前向きな変化を創り出す委員会活動を行って参ります。

## 委員会名【まちづくり委員会】

委員長 土江 元生  
副委員長 松村 洋則

### A. 所信

我々の先輩方は38年前、大田市をもっと元気に明るい町へ変えていこうと使命感を抱き、情熱をもって（社）島根大田青年会議所を設立されました。そして、我々はその思いを継承して、まちづくりに対して高い意識を持ち、自発的に考え、活動していかなければなりません。我々が主管する第35回島根ブロック会員大会においても、メンバー一人ひとりが率先して活動できるように、有意義な会員大会を目指し全力で取り組んでいきます。

私は自分の仕事をとおして、大田市の食文化の魅力に気づきました。日本海で育まれた新鮮な海の幸、雄大な三瓶山から海岸部までの起伏ある土地と気候にあわせて育てられる農作物。それらは全てこのまちの自然という恩恵から生まれた宝物です。そして、自然からの恵みを使った地域に伝わる伝統食文化も残されています。私は食文化を知ることによってその魅力に気づき、このまちの文化だからこそ前よりももっと誇らしく、好きになりました。

このまちの誇らしい魅力は食文化だけではありません。世界遺産に登録された石見銀山遺跡とその文化的景観。さらに、石見神楽に温泉津の焼き物など地域に古くから伝わり継承されてきた伝統・文化があります。そして、豊かな自然にあわせた農林水産業、良質な粘土を利用した瓦産業などの製造業、さらに商業、観光など魅力溢れる産業、地域資源があります。このまちの魅力に気づくことで地域を誇らしく感じ、まちに対しての意識の変化へとつながるのではないのでしょうか。JCが率先して住民へこのまちの魅力を訴えかけることで、地域活性への足がかりとすることが必要です。

このまちにある誇らしい魅力の全てには源があります。そして自然を、文化を、産業を誇りに思い継承している人たちがいます。本年度、まちづくり委員会では、このまちの自然、文化、産業に携わる様々な企業・団体と連携をとって活動していきます。このまちの地域資源を活かすために人と人、団体と団体とがつながり、一人ではなく一つの団体でもない、多くの団体と沢山の市民が集まることで相互の交流を行ないます。そして、そこから生まれる新しい気づきや発想で地域住民のこのまちに対しての行動意識を今まで以上に高め、まちづくりに対して積極的に行動できるひとづくりを目指して活動していきます。

## 委員会名【次世代育成委員会】

委員長 檜垣 康一

副委員長 藤本 節男

### A. 所信

私たちの郷土には豊かな自然が存在し、私たちは多くの恵みを受けながら生活をしています。豊かな自然を今の時代に引き継いでくれた、先人に対する感謝するところを持つとともに、自然からの恵みが私たちの生活の源である事を忘れてはなりません。しかし、現在の満ち足りた生活の中では、物を大切にすることが希薄となり、自然を思いやることを忘れてしまっているのではないのでしょうか。

次世代育成委員会では、次世代を担う子どもたちに、こころ豊かで人と人の繋がりがある確かな時代を引き継ぐためにも、生活の源を見つめ直し、感謝するところを育成する活動を行います。そのためにも、地域の大人と論議を行う事で、地域全体で子どもたちを確かな時代へと導く礎を築きます。そして、地域の大人、子どもたちを対象にした活動を行います。物が溢れ便利な日常の生活を離れて、自然の恵みと触れあえる体験活動を行い、生活の源に気づく事で、物を大切にすることを育み感謝するところを伝えます。また、取り組みに対して、参加者から意見、感想をいただき、確かな検証を行なう事が、確かな次世代を築く知恵となります。地域の大人がそれぞれの地域の中で、きちんと感謝するところを伝えていけるように働きかけをしていきます。

感謝するところを一人でも多くの人々に伝えていくことで築くことのできる、こころ豊かで人と人の繋がりがある社会こそ、次世代に引き継ぐ確かな社会です。私たち、大人が率先して築き上げましょう。

## 2009年度委員会事業計画一覧

### 総務広報委員会

事業名	実施希望日	事業内容
例会行事	3月例会	公益社団法人格取得を見据えた検証
公益法人制度改革	年間	情報収集、事業の検証、定款の見直し、検討会
広報	08/12～09/12	HP保守・管理・取材
	年間	広報活動
チーム・マイナス6%参加	年間	ペーパーレス会議、クールビズ例会
総会・理事会・例会の運営	年間	受付・進行・準備
事業報告書・事業計画書の作成	08/12～09/01	第92回定時総会提出資料作成
定款作成	随時	定款の作成
会員名簿作成	08/12～09/01	現役・OB会員調査、作成
LOM内褒賞	上半期・下半期	記念品
会員誕生祝品	年間	記念品
入会祝品	年間	記念品
活動記録及び整理	年間	デジカメ・DVD-Rにて記録
各事業参加取りまとめ	年間	参加の取りまとめ
卒業式	09/12	卒業式設営・記念品

### 会員開発委員会

事業名	実施希望日	事業内容
会員拡大	通年	会員候補調査、拡大活動
年頭式	1月	初顔合わせ
新年会	1月	懇親会
JCセミナー	2月	説明会
JCメンバー・特別会員交流会	3月、4月、9月	懇談会
例会行事	6月	JCに求められるもの
天領踊り	7～8月	練習、参加
家族交流会	9月	企画運営
例会行事	10月	スポーツ交流
忘年会	11月	懇親会
会員の親睦に係る取組	通年	

## LD研修委員会

事業名	実施希望日	事業内容
LDタイム	1月～12月	3分間スピーチ（内容に重点をおく）
普通救命講習（緊急連絡網整備）	1月	普通救命講習受講／救急キット配布
LD研修スクール1	2月	VMVセミナー（入会候補含む）
例会行事（LD研修例会）	2月	魅力ある聡明なリーダーを目指して
例会行事（LD研修例会）	5月	プレゼンテーションスキル
例会行事（LD研修例会）	7月	理解力・判断力／問題解決手法等
例会行事（LD研修例会）	9月	実践力／コミュニケーションスキル
LD研修スクール2（対外）	10月	Emergenetics （思考や行動のパターンを知る）
島根ブロック協議会との連携		

## まちづくり委員会

事業名	実施希望日	事業内容
例会行事	4月	地域の魅力発信事業
対外事業（複合的なまつりにむけて）	1月～7月	地域の魅力の情報発信、体験など複合的な事業の開催に向けてのリサーチと実施
対外事業	10月	まつりの検証
他団体との連携	通年	大田市内各団体、市人会など他団体との連携

## 次世代育成委員会

事業名	実施希望日	事業内容
委員会勉強会	1月～3月	外部団体と共に学ぶ感謝するところ 2回開催
次世代育成事業	9月上旬	小学生親子対象、感謝するところ育成、サバイバル事業
例会行事	11月	次世代育成事業検証